OIDE 長姫 Topics

社会基盤工学科　「建設技術実践プロジェクト」
インターロッキングブロックの敷設を体験

2026年(令和8年) 9月20日 日曜日　南信州新聞

建設現場のプロセス学ぶ

OIDE長姫高 社会基盤工学科の生徒7人

飯田OIDE長姫高校の社会基盤工学科の7人が「建設技術実践プロジェクト」に取り組んでいる。飯田市水の手町を流れる松川の右岸河川敷に設けられた河川管理用道路で、測量やインターロッキングブロックの敷設を実際に行い、工事プロセスを体験するもの。18日はブロックを敷設する作業を開始し、年末までに仕上げる計画だ。

工事現場を提供する県飯田建設事務所と生徒を指導する県建設業協会飯田支部が、建設産業の担い手の確保や育成を目的とし、OIDE長姫との3者で2017年から「一級河川松川にOIDEなんしょプロジェクト」として実施している。

松川の河川敷には歴代の生徒が約15～30㍍の道路を築き、近隣住民の憩いの場となっている。色彩豊かなインターロッキングブロックを使い、文字や模様を浮かび上がらせており、堤防上からは文字や模様を楽しむことができる。

今年も道路の延長線にブロックを敷設する。7月に県測量設計業協会の指導で事前に測量を行い、施工に向けた準備をした。道路に描く文字は3年土木を意味する「三土OSAHIME」とした。

生徒たちは技術者のアドバイスを受けながら、手分けをしながら作業を進めた。筒井優空さん(17)は「未来まで仲間と共に造ったものが残るのはうれしい。しっかりと造り上げたい」と意気込んだ。

建設業協会の野島登理事は「完成した時の達成感や仕事としての魅力を感じてもらえたらうれしい」と話していた。



ブロックをはめていく生徒たち

掲載記事提供：(株)南信州新聞社